プレス工業株式会社

銘柄コード	-
法人番号	5020001074318

＊は選択開示項目

日本標準産業分類	コード	項目名
中分類	31	輸送用機械器具製造業
細分類（主たる事業）	3113	自動車部分品・附属品製造業
エネルギー管理統括者	【役職】 取締役専務執行役員 【氏名】 矢原　洋	

エネルギー総使用量	731,621 (781,900)	GJ	18,876 (20,173)	kℓ
前年度エネルギー総使用量			19,597	kℓ
非化石エネルギー総使用量＊	非開示			kℓ
調整後温室効果ガス排出量	33,785	$t\text{-}CO_2$		

【エネルギーの使用の合理化】

主たる事業における エネルギー消費原単位※注（2023年度実績）	-		原単位分母 -		
	主たる事業の構成割合		100.0 (100.0) %		
事業者全体の エネルギー消費原単位 対前年度比	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
		108.4	90.6	88.2	111.4
事業者全体の 5年度間平均原単位変化（%）	99.1				

※主たる事業は、必ずしもエネルギー消費量の多寡で決定されるものではなく、日本標準産業分類の考え方に基づき各事業者が決定したもの。

【調整後温室効果ガス排出量の算定に用いた認証排出削減量等の量】

種別＊	合計量＊
	$t\text{-}CO_2$
	$t\text{-}CO_2$
非開示	$t\text{-}CO_2$
	$t\text{-}CO_2$

【電気の需要の最適化】

主たる事業における 電気需要最適化評価原単位（2023年度実績）＊			原単位分母 非開示		
DR実施日数＊	非開示				
事業者全体の 電気需要最適化評価原単位 対前年度比＊	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
			非開示		
事業者全体の 5年度間平均原単位変化＊	非開示				

【非化石エネルギーへの転換】

電気の非化石比率	事業者全体で使用する電気				
目標（2030年度）	11.0%				
直近5年度間の実績値	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
					37.1%
目安設定業種	-		-		
目安（2030年度）	-				
	-				
目標（2030年度）	-				
直近5年度間の実績値	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
					-
目安設定業種	-		-		
目安（2030年度）	-				
	-				
目標（2030年度）	-				
直近5年度間の実績値	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
					-

【ベンチマーク指標の状況（合理化）】

ベンチマーク区分	-	-
目指すべき水準	-	-
ベンチマーク指標の状況	-	
ベンチマーク区分	-	-
目指すべき水準	-	-
ベンチマーク指標の状況	-	
ベンチマーク区分	-	-
目指すべき水準	-	-
ベンチマーク指標の状況	-	
ベンチマーク区分	-	-
目指すべき水準	-	-
ベンチマーク指標の状況	-	

【取組の概要：業界の事情等を考慮した取組について（定性的事項）】

（自由記述欄）

1．エネルギーの使用の合理化に関する事項

2．非化石エネルギーへの転換に関する事項

必読：本開示シートを閲覧するにあたっては「省エネ法定期報告情報の開示制度手引き」を参照お願いします

【参考情報】

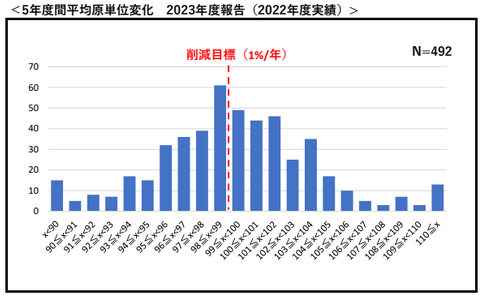
＜業界の特色＞

輸送用機械器具製造業における主な製品は、自動車、船舶、航空機、鉄道車両及びその他の輸送機械器具です。特に自動車産業は日本の雇用の約10%、輸出の約20%を占める基幹産業であり、日本経済の牽引役となっています。
輸送用機械器具製造業は、2022年度において国内の産業のCO2排出の3.8%を占めており、エンジン、バッテリー、モーター、車両組立といった自動車製造に伴う直接・間接排出よりも、ユーザーの走行による排出の割合が高いことが特徴です。自動車製造においては、燃料転換や高性能工業炉の導入等、工場の省エネ・排出削減に努めるほか、排出量の大きい車両の燃費改善に取り組むとともに、電動車（HEV、PHEV、EV、FCV）の販売を通しても地球温暖化対策に寄与しています。

＜定期報告書データに基づく業界毎の集計値＞　注：エネルギー使用量のシェアが全体の0.03%以上で、事業者数が 10 件以上の業種細分類について集計

3113　自動車部分品・附属品製造業		2023年度報告（2022年度実績）		
		平均値	中央値	最大値
エネルギー総使用量	kl	7,929	3,689	234,294
非化石エネルギー総使用量	kl			
調整後温室効果ガス排出量	$t\text{-}CO_2$	15,067	6,282	650,956
DR実施日数	回			

＜5年度間平均原単位変化　2023年度報告（2022年度実績）＞



【取組の概要：カーボンニュートラルに向けて】

（自由記述欄）

1．自由記述欄 （カーボンニュートラルの実現等に資する事業者独自の取組や革新的技術に係る研究開発等の取組について）

2．関連リンク

：
：
：